

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <http://www.j-kana.or.jp/> email: info@j-kana.or.jp

9

September, 2016

vol. 404

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会は、40周年を迎えます。

Contents

建築探訪…01

会員仕事紹介…03

支部だより…05

旅行記…07

アイディアソンハッカソン大会報告…09

編集者のつぶやき…10



建築探訪

樋口一葉 本郷菊坂町旧居とその界限

川崎支部 おんだ建築事務所 恩田 耕爾

「おい木村さん信さん寄っておい出よ、お寄りといったら寄っても宜いではないか、又素通りで二葉やへ行く気だろう、押しかけて行って引きずって来るからさう思いな、…」明治28年に文芸倶楽部に発表した「にごりえ」(明治28年)の出だしの文です。水商売「菊の井」での「お力さん」が客として通う、布団やの職人「源さん」や華族出の「結城朝之助」との思いが下町風情野中に描かれている。明治5年生まれの一葉(本名:なつ)は明治23年9月に本郷菊坂町の借家に移り住んだ。ここに一葉女子の木造の旧居跡が現存しています。一葉が小説の指導を受けていた「半井桃水」(朝日新聞記者)に動かされたとも見えます。場所は地下鉄三田線春日駅から白山通りを北にのぼり右に折れた路地の奥にあります。ここらあたりは東京の台地の一番東の端の台地で下町との境界部分で坂と崖が多く見られるところです。崖の上は山の手豊かなお屋敷町があり、崖の下は庶民の貧しい生活の場があります。一葉は崖の下の路地の奥で生活していたようです。路地奥の苔むした石段を上ると長屋らしき住居があり、その後ろはまた崖の擁壁です。

一葉は長兄の死に続き父親の病没により、ここで17歳にして女戸主となり57歳の母と15歳の妹を養わなければならなかった。小学校高等科を11歳で家庭の事情で、中退となった身ではかなりきついことだったと推測できます。少し下

ったところに住居と蔵のついた質屋「伊勢屋」があります。日記には〈夕刻より着類三つ四つもちて本郷の伊せ屋がもとに行く。四円五十銭かり来る〉とあります。



旧居入り口から見える景色

額原稿料を得た事に刺激を受け、一生懸命小説を書くがこの頃は売れなかった。明治29年、24歳で生涯を閉じるまで貧困から抜けられなく、激しくも必死で生きて来た。

そんな貧しい彼女が現代の5千円札に印刷されているのも世の不思議です。5千円には聖徳太子、新渡戸稲造など世に名を残し成功した方が印刷されていますが、一葉が現代に生きていれば、質屋通いはしなくて済んだと思います。

この生活の場のすぐ下には今でも使われている井戸があります。この水で洗張りをしたのかも…。今では防災用になっていますが水は汲めそうです。住居の石段の上に木造の扉の無い門があり、ここから、井戸の見える下の方を眺めると静かで穏やかでとてもそんな厳しい生活を戦っていたとは感じられません。現在、町屋造りの伊勢屋質店は学校法人跡見学園の所有ですが、昨年11月8日より一般公開されました。台帳も展示されるとの事ですので、一葉が入れた質草の部分も見られるかも、知れません。ここらは昔の護美箱とか銭湯(今は建物のみ現存)とかも残っていて当時の生活の匂いが感じられます。谷根千(谷中、根津、千駄木)あたりはまだまだ昔が残っていて街歩きの楽しい場所です。5千円札を持って本郷界限の散策をお勧めします…。一葉がどうにもならない中で貧しさと戦いながら



樋口一葉住居跡



質屋「伊勢屋」



銭湯



井戸（今も水が出る）



護美箱

必死に本当の自分を生きた界限に身を置くことが出来ます。

参考として

- ・岡野知十：「歌よみのお嬢様とばかり思っていたが、そのとりなしから言葉ついがいかにも世馴れて垢抜けがして居られたのが意外に思いました…」
- ・疋田達子：本郷の家(※)は、戸を開けるとすぐ畳半畳くらいの土間で、その奥に六帖二間、その突きあたりの土間に東の高い崖からしみだしてくる水をためた小さな池がありました。この家の路地の角に、「にごりえ」のお力のモデルになった女のいた銘酒屋があり看板には「お料理仕出し云々」とお夏さんの千陰流の筆が振るってありました。(※菊坂町の次に住んだ住居のことと思われます)
- ・夏目漱石の父とお夏さん（一葉のこと：戸籍上で「なつ」、通称お夏さん）のお父さんとはお付き合いがあって、「金之助にお夏さん

をくれないか。」「よかろう」ということになっていた。そのうちお夏さんのお父さんが亡くなられ、この話は自然に立ち消えになってしまった。→この話実現していれば…

- ・明治26年夏6月29日「此夜一同熱儀、実業につかんことを決す」とし、原稿料で暮らすことを無理と考え、吉原近くの下谷龍泉寺の長屋を借りる。ここで荒物、駄菓子屋を経験し、吉原周辺の最下層の人々の生活を見聞した。（たけくらべ）19歳の一葉の恋したのが芝佐久間町の半井桃水である。

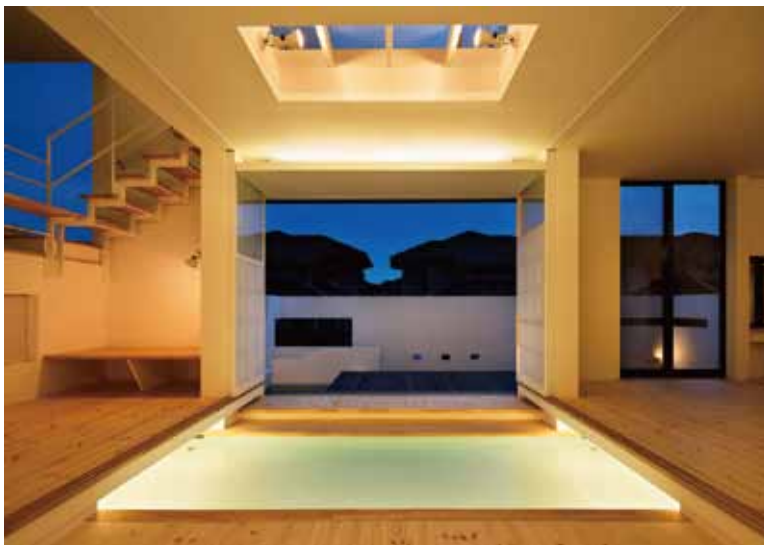


お夏さん（一葉）の5000円札肖像

横浜支部 桜本建築設計事務所 Atelier-SAS 桜本 将樹

住宅を中心に建築設計・監理業務を行っております。関西で事務所を開業し、その後、横浜に移転し、現在11年目の設計事務所です。

設計事務所としての役割は、素晴らしい建築物が完成するために、その現場に関わる全ての人、建て主をはじめ、施工会社やその職人、近隣の方々との調整を含めた、町や建物と人をつなぐことだと感じております。つまり、建築物の机上のデザインのみではなく、周辺環境や人をも含めたデザインをすることが重要だと考えております。



「水盤のある住まい」 2014年 横浜 玄関ホールの水盤

そのためにも建設に関わる全ての人と十分なコミュニケーションを取り、建て主の夢を共有し、そこに住む住人の将来像をイメージしながら、その家が今後、どのように使われていくかを検討し、提案することを大切にしています。

また、住宅は、安全で耐久性があり、住み易いことは、当然なこととして、それ以上に、その家族にとって、世界で唯一の安心できる幸せの場所を提案することが重要であると考えております。できれば、常識的で日常的な生活空間のどこか

に、非日常的なシーンをプラスできるような「住まい」を提案していきたいと考えております。

例えば、「MUTI-COURT HOUSE」では、細長い敷地の中央に水を張ることができる中庭を設けて、そこがエントランスコートとなり、縁側となり、ギャラリーとなり、子どもや猫の遊び場となり、バスコートとなるような、マルチなコートを考えて設計されています。水を張ったマルチコートは、夜になると素敵な旅館のエントランスのような表情を見せます。



「MUTI-COURT HOUSE」 2009年 横浜 マルチコート部分



『近代建築世界一周』2009年 ADP出版

また、一昨年横浜に竣工した「水盤のある住まい」では、玄関ホールに雨水が流れ込む水盤を設け、雨の日には、屋内にしながら雨水の流れる音を楽しめることを考えました。

屋外にある水盤を合わせると5300ℓにもなり、災害における断水時の貯水システムとしても利用できるようにしました。

上記2例とも、特別な設備は設けずに、非日常を取り入れ、その家族にとって、世界で唯一の快適な「住まい」を実現しております。

その他の活動としては、

2002年に世界の名建築を見るために、単独で1年間の世界一周の旅を行い、2009年その記録をまとめた『近代建築世界一周』という本を出版しております。その内容を中心にして、広く建築の面白さを知っていただくために、定期的に、スライド上映会を行っております。

また、小学生を対象とした、角材とゴムバンドを用いて、自分たちの夢の家を造ってもらう「子ども空間ワークショップ」（日本建築家協会での活動）を7年間行っております。

その活動を通して、子ども達は、立体空間の心地よさに触れ、共同作業での物づくり、建築構造の力のかかり方など多くのことを学びます。何よりも、生き活きと活動し、完成して喜び感動する子どもたちの姿に、私も大きな力を受けているような気がします。

仕事をはじめ、こうした活動を通して、自分にできる限りのことをして、少しでも社会に貢献できるように、日々精進してまいりたいと考えております。今後ともよろしくお願いたします。

4



「子ども空間ワークショップ」2011年 桜野小学校にて

支部だより

県西支部勉強会「避難安全検証法排煙ルートB」

県西支部 秋山 開次郎

県西支部では、本年7月28日に「避難安全検証法（排煙ルートB）」の概要について勉強会を開催しました。場所は小田原市川東タウンセンターマロニエ、講師には、当支部協力会社でもある指定確認検査機関の株式会社湘南建築センターの南野様、渡辺様をお迎えました。

想定される全ての火災室の火災に対して、「階に存する者」あるいは「在館者」が煙にさらされずに「直通階段」あるいは「地上」まで避難できることであるという定義や、避難に要する時間と煙やガスが避難上支障のある高さまで降下するまでに要する時間とを比較していく検討の手順など、整理された資料とホワイトボードにて解説して頂き、大変分かり易く勉強させて頂きました。

5 また私が勉強不足で、驚いたのは普段の業務にて避難関係規定の仕様基準に適合させていたことで、ルートAの検証を行っていたことでした。避難安全検証法を用いて性能基準を満足させることがルートB、大臣認定がルートCと位置づけ、どのルートを選択するかは、基本的に設計者の自由に任されているというものでした。まあ本当に自由が与えられたかどうかは私には分かりませんが…。

排煙ルートBにて設計し、施工中に天井高を変更したり間仕切位置を変更したりで計画変更になり、複雑な計算をやり直すのは致し方なしですが、引渡し後の陳列棚などの位置の変更や、将来第三者へ所有権が移り用途変更した時など、どこまで避難の安全性能が確保されるか不明な点が多いように思われます。

災害時においては、建築物の構造的な問題がいつもクローズアップされますが、火災時において避難の安全性を確保することは、それと同等以上に人命に関わります。そのことを常に意識して設計を進めていくことが大切だと改めて感じました。

今回の勉強会の目的は、今後の業務に少しでも役に立つように、スキルアップするように企画されたものでしたが、私にとっては設計監理という業の大切さと難しさをさらに意識させてくれるそんな勉強会でした。

講師の南野様、渡辺様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



支部だより

愛川支部活動報告

愛川支部 支部長 荻田 孝男

皆さまこんにちは、愛川支部長の荻田と申します。

愛川町は県央北部にあり鉄道はございませんが近年の圏央道の開通により交通が一層便利になりました。愛川支部は支部会員として現在7社、賛助会員として1社です。愛川支部では地域との連携および協力をそして会員同士の親睦を図るため様々な行事を行っております。また、県央ブロックの行事等にも積極的に参加させていただいております。



地域との連携・協力については、毎年開催される愛川町ふるさとまつりへの出展参加により、ハード面で住宅相談窓口（耐震・他）・神事協PR・建築関連のパネル展示等を行い、ソフト面では大人から子どもまで参加できる簡素なゲームやヨーヨー釣りなどでとても賑わっております。



3年毎に開催されます愛川町防災訓練では、町行政・町消防署・地元消防団・自治体・地域協力団体そして愛川支部がお互いに協力しあい訓練を実施しております。中でも応急危険度判定訓練では愛川支部がリーダーとなり一般判定士へ緊急連絡網による連絡模擬訓練および疑似傾斜建築物の応急危険度判定訓練を行っております。

また、非会員も対象に工法等の新しい情報を周知していただくための現場説明会や地域の多才な高齢者を講師にお招きし愛川町及び周辺の歴史について勉強会を開催しております。（会員増強になれば…）



会員同士の親睦については、支部定例会を2ヶ月毎に開催するよう心がけております。その出席率は100%！です。定例会終了後には近隣の居酒屋で一杯、夏には会員家族も一緒に地元施設でバーベキューを行い、そこから徒歩10分程度のところにある滝（塩川の滝）を觀賞したりして涼を楽しんでおります。もちろん忘年会なども忘れてはなりません。有志ではバイクツーリングも楽しんでおります。

そのほか会員増強も含め、少ない支部会員ながらも一丸となって活発に活動しております。



旅行記

ダバオ視察

鎌倉支部 有限会社建都 福田 亮一

高校時代からの友人から「ダバオにある嫁の実家を建て替えたいので時間が取れる時でいいから設計して欲しい」と連絡があったのは一年前の事でした。ダバオはフィリピン南部のミンダナオ島南側に位置する港湾都市です。

まずはダバオの気候風土、地域性、社会情勢住宅事情等を把握しなければと思い5日間の予定で成田空港を出発しました。約4時間でマニラ空港に到着、そこで国内線のダバオ行に乗り換えのため一度降りたのですが、いきなり税関でストップ、機内に持ち込んだ旅行バッグに入れてあったコンベックスが凶器になると言うのです。何故かと尋ねると「これで人の首が切れる」と。結局小さなコンベックスだけをダンボール箱に移すために。ダバオ空港までは2時間程ですが搭乗するまで3時間もあったので気分転換に空港内でビールとワインをガンガン飲んでしまいました。かくしてダバオ空港にやっと到着したのですが、またもや税関でまさかのストップ、今度は測量用に持ってきたロングテープを「これで首を絞めることができる」と言ってテープを伸ばし始めたのです、私の怒りもついに爆発、アルコールも入っていたこともありテープを奪い返し押し問答になりました。そこへ友人が遅れて登場、相手にそっと50ペソ(120円位)を渡すと、笑顔で「サンキュー、OK」(なんだか日本に帰りたい気持ち…)あとから友人が私に「あれ以上頑張ると鉄格子の部屋に一週間入れられるヨ」と。新興国へ行く時はポケットに小銭をいれておこうと思いました。

ダバオはかつて強盗の多い地域であったそうですが、前ダバオ市長が一般市民が銃を所有する事を許可して以来、強盗事件は激減したそうです。そのせいかは解りませんが、どこへ行ってもガードマンは銃を携帯していて、どの施設も入る際は簡単なボディチェックがあります。ダバオは殆どがキリスト教徒ですが、町ではイスラム教徒もよく見かけます。

道路は舗装状態が悪く信号も殆ど無く、町の交差点では誘導員が交通整理をしていました。

交通機関は電車は無く、バイクの横にリヤカー

を取り付けたものがタクシーのようなもので、日本のワゴン車の後部座席を縦方向に向きを変えたものがバスのようなもので、常に人が零れる程の状態で走っているのをよく見かけました。

物価は日本の七分の一程度で、5万円もあれば一ヶ月間暮らすことができます。両替は現在1万円が4,300ペソ位です。物はなんでも安いのですが、日本のカップめんは4~5倍の値段がついていました。トロピカルフルーツの産地としても有名です。マンゴスチン、ドリアン、ポメロ、バナナ等店舗以外の道端でも山のように積んで売っていますがドリアンの匂いは強烈で近くでガス漏れが発生しているのではと思う程でした。以上のように緑豊かな都市で日本と比べると時間の流れが緩やかでした。

ダバオの住宅事情を見ようと色々歩き廻ったのですが、結果貧富の差を観るようになってしまいました。

富裕層は広大な住宅街区を高い塀で囲みゲートには銃を持ったガードマンが必ず二人以上で警備しています。その住宅街区を見学したいと思いダメもとで「日本からきた建築家です。中に入れて欲しいのですが」と頼んだら快く入れてくれました。アメリカの富裕層の住宅街とは比べることはできませんが、構造はRC造かブロック造が多く屋根は洋瓦、外壁はカラフルな塗装が多いという状況でした。(ガードマンに礼を言って退場)

中流階級と思われる住宅はテラス式の2LDKの家が多く、ブロック造で金属屋根、内外共モルタル下地に塗装仕上がりが多いようです。価格は日本円にして500万円位との事でした。

貧困層の人も多いと感じたのは、いたるところでバラックのような(日本の終戦後まもないころの家)極めて居住性の悪い家が目についたためです。

友人の奥さんの母親が田舎の小学校の教師をしている関係でたまに炊き出しに行くそうですが子供たちに自分の器は自分で持って来なさいと言うと、中には器でなく空き缶を持って来る子供もいて涙が止まらなくなると言っていました。2万円あれば400人分の食事が賄えるそうです。日本は貧富の差が少なく平和で子供は幸せであると深く感じた旅でした。



この乗り物が庶民の移動手段



ダバオの中間層の家と街並



ダバオの街並み



ダバオの中間層の家と街並



ダバオの富裕層の家



ダバオの多くの人々は、この様な住まい



ダバオの富裕層の住宅街区、入口にゲートとガードマン



ダバオの貧民層の家

大会報告

アイディアソン・ハッカソン大会0806 in 湯河原

今年2月に「40周年記念事業実行委員会(委員長：白井副会長)」が発足し、下部組織の三部会、記念式典部会、記念事業部会、記念誌部会が期間限定で活動していることは皆さま御承知のことと思います。私たち記念事業部会は「記念コンペ」の企画運営を行うことが主要な役割で、現在は部会員20名体制となりましたが、発足当初は6名という少数(精鋭?)で事業スキームの構想を練っていました。

設立40周年のテーマ「未来に繋げる神事協」を掲げ、その推進のために必要なものは何か?を議論していくうちに、行政を含めた関連団体のみならず広く一般に対して「神事協」ブランドを周知することが重要との認識で一致しました。これは、単に会員増強の一助になるだけでなく「オール神事協」体制の確立にも寄与するもので、「記念コンペ」の企画運営は、ブランド周知活動と同義とし、加えてブランド価値向上のため一層の社会貢献活動の実践ができる機会と捉え運営していくことにしました。

そんな訳で、今回御報告する「アイディアソン・ハッカソン大会」が8月6日に湯河原町民体育館で開催されました。この大会は、記念コンペと同じ「未来に生きる仮設住宅を問う」をメインテーマとした大規模なワークショップで、大会を通して得られた色々なアイデアを記念コンペ提出作品中に表現して頂くことを目的に開催したものです。

当日は、最高気温34度という酷暑の中、神事協会員・行政関係者・関連団体関係者・学生・一般の方など225名(途中退席の

40周年記念事業部会長 大和田 優

方や観覧の方を含む)に御参加頂き、展示物の閲覧やディスカッションを通して、20グループ毎に20のアイデアを発表して頂きました。複数のメディアにも取り上げて頂き、盛況のもと当初の目的を達成できたと考えております。

御参加頂いた方、共催頂いた湯河原町の皆様、助成金のみならず展示物の御提供を頂いた(一財)神奈川県建築安全協会の皆様、誌面の関係でここに記載できない大勢の方々に、心より感謝申し上げます。

最後に、やや無謀とも思われた今回の企画に、御心労を御掛けしただけでなく動員の御助力まで頂戴した皆様、どうもありがとうございました!



新入会員のご紹介

7月入会者

横浜支部

竹内二級建築士事務所 竹内 俊雄
〒245-0021 横浜市泉区下和泉3-12-6
TEL.045-801-9514 FAX.045-410-5014

株式会社トライアングル一級建築士事務所 名和 靖晃
〒223-0057 横浜市港北区新羽町1807-1
TEL.045-545-2255 FAX.045-545-2250

川崎支部

株式会社4dp長友建築研究室一級建築士事務所 長友 寛昌
〒214-0039 川崎市多摩区栗谷1-9-11
TEL.044-742-8380 FAX.044-819-6080

鎌倉支部

J・フォルム計画工房一級建築士事務所 梅澤 明弘
〒247-0051 鎌倉市岩瀬1074 エコトピア大平201
TEL.0467-81-3271 FAX.0467-81-3271

秦野支部

合同会社 宗像構造設計 宗像 将和
〒257-0028 秦野市東田原654-13
TEL.0463-68-6333

8月入会者

川崎支部

JFEコンフォーム株式会社 江口 直弥
〒210-0855 川崎市川崎区南渡田町1-1
TEL.044-355-7221 FAX.044-355-7737

退会者

横浜支部

株式会社OK環境創造一級建築士事務所 小木曾 健二

変更

横浜支部

TOKO LIVING DESIGN一級建築士事務所
(事務所名変更) 旧) 東光管工TOKO LIVING DESIGN

賛助会新入会員

平成28年度入会者

岩谷産業株式会社エネルギー首都圏支店

三和シャッター工業株式会社
首都圏第二事業部神奈川中央ブロック

会 勢		平成28年8月15日現在				
支部名	平成28年3月末日	現在	入会者	退会者	増減	
横 浜	262	264	11	9	2	
川 崎	105	107	4	2	2	
横 須 賀	52	51	0	1	-1	
湘 南 三 浦	16	16	0	0	0	
藤 沢	28	28	1	1	0	
鎌 倉	39	40	2	1	1	
茅ヶ崎寒川	18	18	0	0	0	
平 塚	21	20	0	1	-1	
秦 野	18	19	1	0	1	
伊 勢 原	9	9	0	0	0	
大 和 綾 瀬	19	19	0	0	0	
厚 木	34	33	0	1	-1	
座 間	13	15	3	1	2	
海 老 名	15	16	1	0	1	
愛 川	7	7	0	0	0	
相 模 原	75	75	0	0	0	
県 西	41	41	0	0	0	
合 計	772	778	23	17	6	
賛助会員	77	82	8	3	5	

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。
※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

編集者のつぶやき

昨今、ル・コルビュジェが設計した国内唯一の建物、国立西洋美術館が世界遺産に登録され話題となっているが、この建物はコルビュジェから送られてきた図面を元に3人の日本人弟子の共同実施設計・監理で出来上がっている。分担は構造・設備が前川國男、建築が吉阪隆正と坂倉準三だったようである。国立西洋美術館が出来たのが1959年、それからさかのぼること8年の1951年に以前閉館で話題となった神奈川県立近代美術館が竣工しているのだが、1955年に外務省の依頼で国立西洋美術館の敷地視察のため来日したコルビュジェを坂倉準三が鎌倉に招いた話は有名な逸話である。

美術館は広く知れ渡っているが坂倉準三の鎌倉での仕事はそれだけではない。鎌倉市の手広というところに東洋レーヨン基礎研究所という建物がある。1962年築、見学は出来ないがブリーズ・ソレイユ（外壁の日除け）や食堂棟の反り返った屋根などシンプルかつダイナミックなデザインで、外壁でよく用いられた青い大佛タイル（釉薬が厚い大ぶりのタイル）も残っているとのこと。TVウルトラマンのロケ地として登場したこともあり、宇宙研究所等の設定でデザインとよくマッチしていた。



稲村ヶ崎と七里ヶ浜の間、国道134号線沿いに哲学者西田幾太郎博士記念歌碑がある。これも坂倉準三のデザインである。博士が晩年暮したこの地に門下生が発起し著名な知識人や芸術家の賛同を得て、洋画家であり矢橋大理石商店を興した矢橋六郎が建設した。碑に刻まれているのは「七里浜 夕日漂ふ 波の上に伊豆の山々 果し知らずも」という西田作の歌で、七里ヶ浜の海岸を好んで散策しつつ思索を巡らしたであろう情景が目に見え、建っているロケーションと見事にマッチしている。碑は優美な曲線で構成され、おらかなやさしいフォルムは時代を越えてモダンである。機会があれば是非訪ねていただきたい。

【鎌倉支部 清田 鈴美子】

かながわ 平成28年9月号 (通号404号)

発行 平成28年9月1日 (奇数月1日発行)
 発行人 小林 忠志
 発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
 〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2F
 TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
 印刷所 株式会社 柏苑社

- ・ 担当副会長 小渡 佳代子
- ・ 広報情報委員長 白川 正孝
- ・ 広報情報副委員長 三村 邦彦 小泉 厚
- ・ 広報情報委員 雨森 隆子 恩田 耕爾 清田 鈴美子
- ・ 新倉 良一 小井口 英寿 坪井 教一
- ・ 杉本 勝郎 神尾 明美
- ・ 事務局 小林 恵美



今月の表紙

座間市新田宿の向日葵

座間市の相模川付近のひまわり畑が賑わっていると聞きつけ訪れました。その数45万本と言われる通りなかなか迫力の眺めでした。小学生の時学校で栽培して以来、とんと縁が無かったひまわりですが、ひまわり油は抗酸化作用が認められたり、バイオ燃料の材料として研究されているとの事で、ご無沙汰しているうちにずいぶん御出世なさったものだと感心した一日でした。（裏表紙の写真は 近傍の水田風景）
